

多摩川での学年に応じた自然体験活動

全学年が学べる、
川体験に絶好の多摩川

活動概要

みねまち

額町小学校では、学校の近くを流れる多摩川をフィールドに、1～6年生までが学年に応じた活動

をしています。

1～4年生は「川歩き」を中心とした活動、5年生は「水質調査」などの活動、6年生は「いかだ下り」と、様々な活動を行っています。学校の近くを流れる多摩川で活動することで、児童は自然環境についての興味・関心が高まり、また、川は楽しいところだけれど、危険も存在していることを学びました。

学校名	東京都大田区立額町小学校
活動場所	多摩川まで約100m(徒歩で移動)
対象学年	1～6年生の各学年
科目	1～4年生、6年生－総合的な学習の時間の活動として実施 5年生－理科や社会に関連した活動として実施



学習のねらい

本学習は、総合的な学習の時間の活動（5年生は、理科や社会の授業とした活動）として実施しています。

全学年とも、学校の近くを流れる多摩川に親しんでもらうことをねらいとしており、学年別には、1～4年生は「川

歩き」を中心とした活動、高学年の児童は5年生で「水質調査」、6年生で「ペットボトルを使ったいかだづくり」など、環境保護とからめた活動をしています。

実践例

活動を行うにあたって



P プログラム内容

活動1 1～4年生	「川を歩き、中州に行ってみよう」
活動2・3 5年生	「多摩川の上・中・下流を調べよう」 「多摩川の水質を調べよう」
活動4 6年生	「ペットボトルいかだで川下りをしよう」

活動時期

- ・川歩き……7月に実施
- ・ペットボトルいかだ下り……10月に実施

参加した児童数

- ・1年生～6年生、各学年80名程度ずつ

活動場所

- ・1～4年生，6年生：多摩川（学校の近くの場所，徒歩で移動）
- ・5年生：多摩川の上中下流（上流・中流域は貸切バスで移動，下流域は徒歩で移動）



使用した道具

- 安全のために用意した道具（各学年共通）
ライフジャケット，スローロープ
- 川底の観察の道具（2年生，3年生の活動で使用）
箱メガネ
- 生き物の観察の道具（3年生の活動で使用）
タモ網，プラスチック水槽
- 水質調査の道具（5年生の活動で使用）
水質簡易測定キット
- ペットボトルいかだづくりのための道具（6年生の活動で使用）
ペットボトル，ガムテープ，プラスチック天板，針金，不織布（旗用）

STAFF

スタッフの手配

- ・1～4年生の「川歩き」や6年生の「ペットボトルいかだ下り」では、保護者に手伝いを依頼しました。
- ・5年生の「水質調査」では、地元の活動団体「多摩川クラブ」の方に講師を依頼しました。

現地下見

- ・事前に活動場所の下見を入念に実施しました。
- ・川歩きをする際の、中州までのルートの確認をし、当日の大人の配置を入念に計画しました。
- ・潮位を考慮し、実施日時を決定しました。

活動内容



活動 1 ～川を歩き、中州へ行ってみよう（1～4年生）～



④ ライフジャケットの正しい装着の仕方を学ぶ



↑ 川歩きの様子

- 学年別に、日程を別にして「川歩き」を行いました。
 - どの学年も、はじめに、ライフジャケットの正しいつけ方を学びました。
-
- 「川歩き」の際は、深いところを避けて一列で進ませました。目的地点は中州としました。
 - 「川歩き」の際は、通路の定点に教師や保護者を配置し、子どもたちの監視や支援を行うようにしました。



↑ 石拾いの様子

- 中州に着いたら、各学年に合わせた活動をしました（1年生：周辺の観察や石拾い、2年生：川底の観察や石拾い、3・4年生：川底の観察や生き物の観察）。
- 帰りも行きと同様のコースをとり、同じように川歩きをして帰りました。



活動2 ～多摩川の上・中・下流を調べよう（5年生）～



↑ 多摩川中流域の風景

- 理科の「流れる水のはたらき」に関連した学習として実施しました。
- 貸切バス2台を借りて、多摩川の上流・中流を観察しました。
【観察場所】小河内ダム、氷川溪谷、青梅市釜の淵公園
- 学校の近くの川を観察し、下流の観察としました。
- 観察結果をもとに、上流、中流、下流のそれぞれの特徴を整理しました。
- 過去に観察した干潟の状況も含め、児童は上流から河口までの川の様子を知ることができました。



活動3 ～多摩川の水質を調べよう（5年生）～



↑ 調布取水堰

- 社会の「わたしたちの生活と環境」に関連した学習として実施しました。
- 活動の前に、汚染がひどかったころの多摩川の様子をビデオで見たり、地域の方々に当時の話を聞いたりしました。
- 水質調査では「多摩川クラブ」に協力してもらいました。
- 丸子橋下まで歩いて移動し、調布取水堰や川を観察した後、ペットボトルで川の水をくみました。
- くんできた川の水を教室で観察し、気づいたことをワークシートに記入させました。
- その後、簡易水質測定キットを用いて水質を計り、多摩川の水質が改善されていることを知りました。



活動4 ～ペットボトルいかだで川下りをしよう（6年生）～



↑ プールでの試乗の様子

- いかだの作成
- 身近なものをリサイクルして、多摩川の活動で使えるものはないか話し合い、話し合いの結果、ペットボトルいかだをつくることにしました。
- 班ごとに、ペットボトルいかだの設計図を作成しました。
- 実際に、いかだをつくりました。
- プールでの試乗も行い、いかだは改良を加えていきました。



↑ いかだ下りの様子



↑ 協力していかだを運ぶ

○いかだでの川下り

- 事前に、保護者などに活動支援を依頼し、当日の監視体制を入念に確認しました。
- 活動の際は、はじめに、ライフジャケットが正しくつけられているかを確認しました。
- コースを決め、川流れをしました。

- 下流まで流れたら、班で協力して上流までいかだを運ぶようにしました。



関連する単元

- ・1・2年生－生活「自然とのかかわり」
- ・3年生－理科「身近な自然の観察」
- ・5年生－理科「流れる水のはたらき」
- ・5年生－社会「わたしたちの生活と環境」
- ・共通－総合的な学習の時間
- ・共通－特別活動

先生の声

○1年生は、初めて多摩川に入ったが、普段とは違う景色に多くの子が歓声をあげていた。ライフジャケットの着脱方法や基本的な安全に関する指導は、事前に時間をとり十分行う必要がある。

○2年生は、皆思い思いの石を拾っていた。石は一人一つずつ教室に持ち帰り、表面をきれいにしてから色を塗った。今回は多摩川の石を使う活動であるため、事前に石を投げないなどの安全面の指導も十分に行った。

○3、4年生は、多摩川の生き物を観察した。生き物によって観察場所が異なるため、教師はどの生き物がどの場所によく見られるのかを知っておく必要がある。水温の関係で今回は7月に活動したが、来年度は春、魚が流れをさかのぼって行く様子を、河川につくられた特別な水路で

観察する活動も考えられる。中州で自由に行動させるよりは、小グループを編成し、大人が小グループの補助に入ること、どのグループも確実に生き物の観察ができる。

○5年生は、身近な河川的环境が多くの人の努力によって守られていることを知り、自分たちにできることは実践していこうと考え、その後行った一斉清掃も意欲的に取り組んでいた。

○6年生は、多摩川で、いかだを浮かべて乗ることができると驚き、意欲的に活動に参加した。いかだの作成にあたっては、事前に学校のプールに浮かべ、改良後に川に浮かべた。また、活動後はペットボトルとキャップをリサイクルし、環境への配慮についても子どもたちに考えさせた。